

1,心理アセスメントとは

目の前にいる人がどういう状態なのか、それを査定＝アセスメントすること

実際の臨床現場では、何らかの訴えのある方に対して

症状の背景となるもの

問題の性質や要因

形成過程

を理解していくために必要不可欠なもの

心理領域：『診断』『検査』『査定』『評価』『見立て』

司法領域：『鑑別』『鑑定』

福祉領域：『判定』『査定』

2, アセスメントの方法

検査法:

個人の精神、メンタルな部分を測定する精神検査

性格や態度、いわゆるパーソナリティを測定する人格検査

質問紙法・作業検査法・投映法

図形や数字、言語、絵などを利用して個人の知能や認知機能を測定する検査

観察法:

自然観察：日常的観察法、組織的観察法

(参与観察)

実験観察

面接法:

調査的面接・臨床的面接

3、心理検査の種類

精神発達検査 / 知能検査 / 認知機能検査

性格・人格検査 / 行動・社会性検査 /

学力検査 / 道徳性検査 / 運動能力検査

さまざまな目的・対象・実施方法をとる検査が存在する

4、検査のメリット・デメリット

メリット : 客観的・科学的に判断できる……信頼性・妥当性の問題

短時間に多方面のアセスメントが可能……テストバッテリーの有効性

本人が意識していないレベルでの判定が可能 ……観察法・面接法との違い

検査によって治療・相談効果がある……構造化された枠

今後の指針を得ることができる

デメリット : 補助的道具でしかない ……テストの特徴(わかること、わからないこと)

を熟知する必要性

信頼性の問題……標準化、検査者の熟練度による影響

対象が限定

5、検査を行う際の注意事項

検査法の慎重な選択 : 検査それぞれに長所と短所が存在する

今、目の前の被検査者にとって、また必要な結果を得るためにどんな検査が必要で、ど

んな検査のバッテリーを組む必要があるか、熟慮して選択すること

検査法に習熟すること : 開発者の概念の定義によって検査が作成

どの検査についても、どういう目的をもって作成され、どういう形で標準化され、どういった側面を図ることができるのか、また図ることができないのかということについて習熟した上で、検査を実施すること

ラポールの形成 : 被検査者にとってマイナスの体験にしない

評価される場ということではなく、被検査者のために実施するものであるということ。

検査者がリラックスした状態で、反応ができるような配慮

実施手順を熟知しておくこと :

その一つの検査が実施手順によって構造化され、標準化されているということ。

勝手な変更は許されない(結果や解釈が変わる可能性)

また実施手順を知らないために、検査が手間取ることはあってはならない

正規の検査方法によること : 測定されるもの、結果を正しく判定する

訓練と教育指導のもと実施すること。また熟練が必要。

負荷をかけすぎない : 所要時間、目的に合ったテストの選択

被検査者が十分検査に臨めるような環境・状況を整えること

6、検査とは

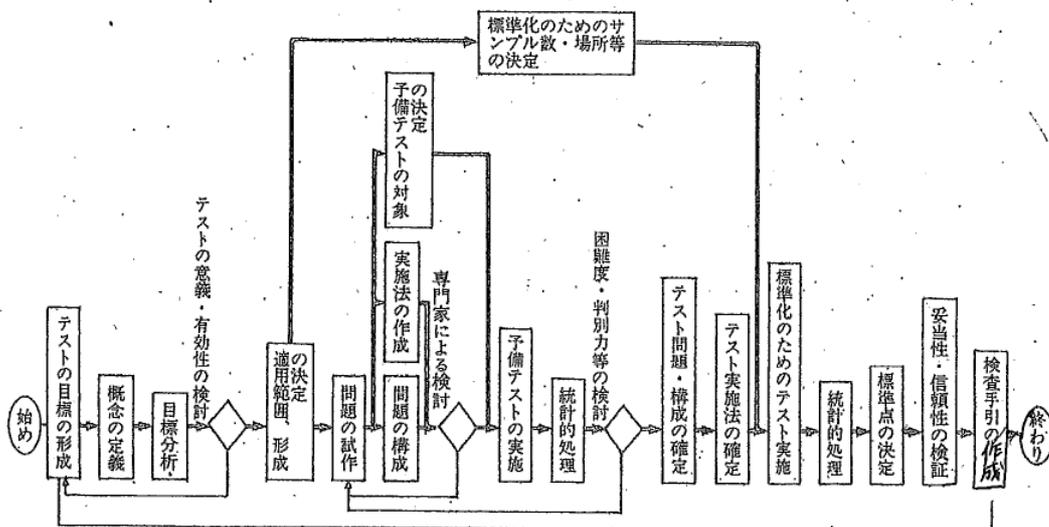


図1-1 標準テスト作成のフローチャート(吉森, 1978)

心理アセスメントハンドブック 上里一郎監修
1993, 西村書店

7、検査にとって必要な条件

妥当性 validity :

- 内的妥当性 測定しようとしている内容を十分反映しているか。複数の専門家の一致
- 基準関連妥当性 適切な外部基準との関連性。基準値と測定値の相関、判別の正確さ
- 表面的妥当性 テストが測定しようとしているものを測定知るのかどうかといった見かけ上の妥当性

信頼性 reliability :

- 再検査法 同一対象に対して間隔をあけて実施。結果の相関をみる
- 平行検査法 同一対象に対して二つの等価の検査を実施。結果の相関をみる
- 折半法 一つのテストを折半し、別々に採点して両者の相関を求める
- 内的整合法 各項目の通過率や、相互相関をもとに推定
- 分散分析法 同種のテストを複数用意し、それを何回かにわたって実施。

客観性 objectivity

実施の容易さ administrability

採点の容易さ scorability

経済性 economy

8、検査の分類

Cronbach(1966)

最大のパフォーマンスを測定するテスト 知能・能力検査など

典型的なパフォーマンスを測定するテスト パーソナリティ検査など